

# 北海之光

2月号 北海道教区報

ハレルヤ 新しい歌を  
主に向かって歌え  
詩編 149 編 1 節

発行所 北海の光社  
001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12  
日本聖公会北海道教区事務所  
電話 011-717-8181  
FAX 011-736-8377  
E-mail:hikari@nssk-hokkaido.jp  
http://www.nssk-hokkaido.jp  
発行人 植松 誠

## 「アポトーシス」

〜大齋節を前にして〜

新札幌聖ニコラス教会

司祭 ノア 上 平 更

明治維新以降、日本は西欧文化を取り入れることで近代化を進めました。西暦もこの時期に私たちの生活に組み込まれた制度です。みなさんは、この西暦の始まり、一月が一年の初めにあたることを不思議に思ったことはありませんか？

現在の西暦はたしかに一月から始まります。日本も元旦、お正月を一月から祝いますが、元々の西暦のカレンダーの成り立ちをたどると、前二世紀頃までは三月が最初の月とされていたようです。暦を数える根拠として、農耕が主たる人々の営みだったからとされています。

春夏秋冬が春に始まるように、私たちも三月〜五月の雪解け、草花の芽吹く頃に新しい季節の始まりを感じるのではないのでしょうか。日本は四季の変化が豊かな国です。特

に北海道や東北地方の雪国の暮らにおいて、雪解けと春を告げる生き物たちの声、灰色からさわやかな青に染まった空は、長い長い冬籠りの終わりを大自然が全身で伝えてくれる神様が与えてくれたカレンダーなのです。

この新しい季節の始めとイースター直前の四〇日間、大齋節は、キリスト者に限らず、四季の中で生きる生命のサイクルとも親和性のある時期かもしれません。「大齋節(Tent)」という言葉にはラテン語源で「四〇」という意味がありますが、古英語・ゲルマン語源には「春の季節」という意味に派生します。

三月、四月と言えば、日本のこよみの感覚から言えば「桜の季節」、卒業や進学、就職といった新しい人生の門出を祝う時期です。送別会もあれば、歓迎会もあります。出

会いと別れ、喜びと寂しさを分かち合う時期です。

イエス様は弟子たちとの最後の夜に彼らと共に過ごす晩餐(過越の食事とも)を開かれました。いよいよ地上での弟子たちとの日々の終わりを悟られたイエス様は彼らの足を洗い、これからのことを伝え、自らの定められた時が訪れたことを伝え、十字架への道を歩み出されます。この別れの時、悲しみと不安で満たされる弟子たちにイエス様は諭されます。

「人の子が栄光を受ける時が来た。はつきり言っておく。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。」(ヨハネによる福音書二二章二三〜二四節)

弟子たちの視点からは「主イエスの死=永遠の別れ」と映っていたことでしょうか。しかし、ご自身の生と死を、神様のご計画の内に受け止めていたイエス様の視点からは、「十字架の道、ご自身の死を「終わり」ではなく、神と人との和解、栄光ある復活という新

たな希望の「始まり」という未来として見えていたのではないのでしょうか。ゲッセマネで祈るイエス様の姿には人間的な弱さ、葛藤も伺えます。ですが、訪れるべき時をイエス様は、あくまでも神の備えられた道に向かって歩まれました。

枯葉はその緑の時の美しさゆえに、衰えと消滅を予感させます。しかし、地に落ちるのは、その葉を栄養として更なる命へと繋いでいく命の循環のための「アポトーシス(定められた死)」であり、葉としての個は消えても、自らは新たな命の中へと取り込まれていくのです。

まもなく迎える大齋の時、イエス様のご受難の四〇日を胸に歩む時、私たちもまた、自らの視点で時を刻むのではなく、神によってひとりひとりに備えられた道は何か、思いを巡らし、神の器として用いられる道を見出す四〇日間となりますように。



# 福音と私(二五五)

今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか

函館聖ヨハネ教会信徒

殉教者おとめルシア 永田 幸子

## 「私の好きな聖句」

「神にできないことは何一つない。…私は主のはしたためです。お言葉どおりこの身に成りますように。」

ルカによる福音書 第一章三七〜三八節

私は今年で九〇歳になりましたが、洗礼は二八年前の事になります。そのきっかけは、夫、昭と結婚し四一年目、喉の病が悪化し病床洗礼を受けた事でした。その日は主日礼拝後の夜遅くでした。私はすでに六二歳でしたが、伴侶をなくしたことで受洗しました。夫は、青函連絡船摩周丸に勤務しており、永田家の皆様のようによく日頃から礼拝に出席することはありませんでした。教会には、同じ姓の兄嫁二人が熱心な信徒としておられました。兄嫁の博子さんに連れられて度々教会の大きな行事に行くことはありません



―心の窓をひらく―

たが、礼拝に出席する事はありませんでした。現在は、旭岡の老人施設におります博子さんから誘われ、教会に通うようになりました。それから、毎主日志賀さんご夫妻が迎えに来られ、また帰りは、山崎七夫兄・石戸厚子姉が家の傍まで送ってくださいます。九時三〇分には、礼拝堂に着き、静かにみ前で祈る事ができて本当にありがたいです。最近、ようやく永田家の三嫁の一人として、イエス様の祝福のうちに生きているのだと思います。子どものころからキリスト教関係の本が好きで、選り読んでおりました。特に、ビクトル・ユーゴーの「ああ、無情」のジャン・バルジャンの生き方、パンを盗んだことが、人生の歩みを耐えがたい苦しみにおとしめます。しかし、度重なる温か

な人の情けと神様の愛にあって孤独や困難、苦しみの中にある人たちと共に生きて行く姿、罪の償いの生涯は、何度読み返しても涙を禁じ得ません。今、私はそこに居るだけの超高齢者の一人ですが、好きな手仕事のレース編みで造った十字架を司祭様が額に入れ、諸天使礼拝堂やご自宅の居間に飾ってくださいしております。また、冬に入る前に編んだ毛糸の帽子が苦小牧に來られる外国船員さんに用いられている事を知り、喜んでおります。段々と目や手が不自由になってきますが、「静かに聖堂の隅に居るだけでいいから、それが皆を励ましていくのですよ」という司祭様の一言に慰めを覚えております。皆様のよういろいろなことご奉仕に積極的に参加することはできませんが、夫亡き後に教会の一員となり、佐藤忠正・優子(長夫妻)夫婦に支えられて、のびやかな余生を送っております。高齢者が元気で過ごせるのは、温かい思いやりの中で、話し、祈り、歌うこと。この幸せな生活をこれからも続けて行きたいと願っております。

## 主教被選者マリア・グレイス笹森田鶴司祭の「紹介」

主教 ナタナエル 植松 誠

今年四月二三日、私たちは新しい主教として、マリア・グレイス笹森田鶴司祭をお迎えします。笹森司祭は東京教区の司祭で、北海道の多くの方は、笹森司祭がどのような方かご存じないと思うので、私に彼女を紹介するようにとの依頼をされました。

「紹介」はあまり必要のないと私自身は思っています。どのように紹介したとしても、それは先生の一面でしかないし、それも私の思いの中からという限定付きになってしまいうからです。まずは、北海道教区の皆様が笹森新主教とお会いになって、言葉を交わしていただくこと、また、礼拝などで新主教の説教やお話を聞いていただくことだと思えます。わくわくしながら、そしてちよつぱり心配しながら、彼女との新たな出会いの中で皆様なりの関係を築いていただいたのが一番です。

そうは言いながらも、少しだけ笹森司祭のことを「紹介」させていただきます。今から二七年前、私が管区事務所の総主事をしていた時、一九九五年日本聖公会宣教協

議会の準備のために多くの聖職と信徒が何度も管区事務所に集まり、熱心な議論が行われました。笹森先生はその時から私の仲間です。彼女はまた幼いあかちゃんを連れての参加でした。一九九八年、女性の司祭職への道が開かれ、その翌年の一月六日に笹森先生は司祭に按手されました。女性司祭を認めるかどうかで、長年の議論があり、当事者として先生はいろいろな場面で話をされましたが、ぎすぎすした、緊張感が漂う中でも、笹森先生の話にはいつも相手をお願いする優しさや信頼がありました。そして、それはどのような問題に関しても、相手がだれであっても、変わらない先生の聖職としての生き方そのものであったと思えます。

今も多くのの方が、先生を「田鶴先生、田鶴さん」と呼びます。昔から彼女を知っている人には今でも「田鶴ちゃん」です。 さあ、皆様にとつてどのような出会いになるでしょうか。素晴らしい出会いと関係、それは私が保証します。どうぞお楽しみに。

### 常置委員会報告

第三回一月一七日

#### 《協議事項》

- 一、主教按手式に関する件
- ・実行委員会からの報告を受け協議した。
- 二、植松主教退職の件
- ・感謝礼拝を、三月二一日(月)。



## 主教室より

「主教室より」はこれを含めて、あと二回を残すのみとなりました。一五年前、主教に就任した時、前任の天城主教様の連載「八角堂」を引き継ぎましたが、編集部は私に何か新しい名前をつけてほしいと言われたのを覚えています。明けても暮れてもその名前を考えましたが、「そのうちに何かひらめきでも与えられるだろうから、それまで待つ」ということになって、仮題としての「主教室より」で、ついに二五年間、そのままになってしまっていました。毎年一二月号には教区

祝)に予定。コロナ禍において、出来る範囲で行う事とした。

三、教役者人事異動についての件

・主教による人事案に同意した。

四、阿部恵子司祭、金内淳子副主事(学法・社法主事)、

会での主教告辞が載るので「主教室より」は無く、それでも二五

五年間で約二七五回の「主教室より」を書いたことになりました。「主教室

より」に代わる名前はひらめきませんでした。この「主教室より」を読み返してみますと、毎回、毎回がひらめきの連続であったことに驚かされます。

二五年前の最初の「主教室より」には、五月、長い冬の後、一斉に咲きたす庭の花や桜やこぶし、急に出でた緑の草や葉を見て北海道の春の豪華さに感動し、「なんと美しい北海道の春でしょう」と書いています。でもその感動は、主教按手時(三月)の雪と

植松主教の退職金の件

・規定に基づき支出する事を確認した。

五、二〇二二年度教区会計収支の件

・決算状況について報告を受け、了承した。

六、コロナ感染対策の件

・コロナ感染拡大に配慮して

氷、そして、ほこりが舞う汚い四月を体験したから言えたことなのでしょう。二五

五年間、北海道の大自然に、人々に毎回感動しながら、その中で信仰を生きる聖職や信徒からいつも励まされ、慰め、希望を与えられてきた自分であったことが二七五回の「主教室より」から実感できます。そして思うのです。キリストの福音って何と素晴らしいんだろうと。

喜びや悲しみ、苦しみや困難、それらを持ちながら生きる私たちに、イエス様がいつもいてくださった。そして、北海道教区のみんながいつもいっしょにいてくださったと。

主教 ナタナエル 植松 誠

対策を継続する事を確認した。

七、信徒奉事者推挙の件

・各教会より提出された推薦者を承認した。

## 十 教区逝去教役者 記念聖餐式

三月九日(水)

午前一〇時三〇分

於 主教座聖堂

次の方々を覚えて祈ります。

司祭 遠藤 喬

一九八九年三月二日

伝道師 水科 五郎

一九九二年三月七日

伝道師 H・アンデレス

一九一八年三月七日

司祭 ベヴァレー・D・タッカー

二〇〇七年三月一〇日

伝道師 西村 ヒサ

一九二三年三月一六日

伝道師 フローレンス・E・カーター

一九七〇年三月一七日

司祭 ウィリアム・A・リーブ

一九六六年三月一八日

司祭 吉川 孝

二〇二二年三月一八日

司祭 ジョージ・C・ニベン

一九五一年三月一八日

司祭 岸本 隆一

一九五三年三月二六日

伝道師 グレース・S・スティンソン

一九四二年三月二九日

伝道師 中村 熊次郎

一九四九年三月三〇日

## 公 示

救主降生 2021年12月20日  
日本聖公会 主座主教 武藤謙一  
主教 ルカ

神のおゆるしがあれば、  
主教被選者マリア・グレイス笹森田鶴師の主教按手式および日本聖公会北海道教区主教就任式を下記のとおり執行いたします。  
主にあるみなさま、ことに日本聖公会に属する信徒・聖職の代禱を求めます。

### 記

日時：2022年4月23日(土)  
午前10時00分～  
説教者：主教 ガブリエル 五十嵐正司師  
(日本聖公会主教)  
場所：日本聖公会北海道教区 主教座聖堂  
(札幌キリスト教会)  
北海道札幌市北区北八条西6丁目2-18  
※祭色は赤を用います。

以上

## 追 悼

## 司 祭 バルナバ 小 貫 雅 夫 師

司 祭 ミカエル 広 谷 和 文

司祭バルナバ小貫雅夫師が、二〇二二年二月六日ご逝去されました。九一歳三ヶ月のご生涯でした。

読みたいと思います。ルカによる福音書二章二九節に記された「シメオンの賛歌」の冒頭の一節です。

通夜の祈りは、七日午後六時より聖マーガレット教会

「主よ、今こそあなたはお言葉どおり

で、また葬送式は八日午後五時より札幌キリスト教会にて

この僕を安らかに去らせてくださいます」。

執り行われました。通夜の祈

今私がここに立っているの

りでの説教は植松誠主教が、葬送式での説教は、広谷和文

は、先生ご自身のご依頼によるものです。おそらく先生は、私が先生との交わりを通して

司祭が担われました。ここに広谷司祭の承諾を頂戴した上

体験してきた福音の豊かさをうにと願って説教の任をお委ねくださったのではないかと

で、説教原稿を掲載させていただきます、小貫雅夫司祭を偲びたいと思います。

\* \* \*

思います。

敬愛するバルナバ小貫雅夫先生を神さまの御許にお送りするにあたり、聖書の一節を

雅夫先生ご逝去の知らせをいただいてから、共に過ごした日々の思い出が次から次へと私の中を駆け巡っておりま

した。いろいろなことをお話ししたいという思いがこみ上げてくるのですが、とてもそれはかないませんので、心の奥に焼き付いている思い出の



二、三をお話しして、先生をお送りしたいと思います。

雅夫先生にはじめてお会いしたのは、新冠の教会でした。

そこで北海道教区のキャンプ

が行われていて、先生は新冠

聖フランシス教会の牧師として

私たちを迎えてくださった

のです。にこやかに握手をし

ていただいたことが昨日のよ

うに思い出されます。それが、

五八年に及ぶ先生との交わり

の始まりでした。

そのキャンプのプログラム

中に夕陽の会と書いて夕陽会

(せきようかい)という時間

がありました。参加者が草わ

らに座って、草原のかなたの

山に沈む夕陽を眺めて黙想す

る時間なのです。沈黙の三〇

分が過ぎたとき、雅夫先生が

お話をしてくださいました。

「私たちが今見ている自然、

大きく、美しい自然は神さま

によって作られたものです。

この大きな自然の背後に創造

主としての神さまを感じ取っ

てほしいのです」とゆっくり

とかみしめるように語ってく

れた先生の言葉が、実は私を

キリスト教信仰に向けて決定的に後押ししてくれたのでした。

それ以前にも、自然界の美

しさや不思議さに触れて、何

か神秘的な感動にとらえられ

ることはありました。しか

し、少なくともそれ以前の私

がそこに創造主としての神さ

まの働きを見るところは

なかったのです。その私が、

小貫先生の言葉を通して、神

の实在と働きに目覚めたので

す。そのような経験は人生に

何度もあるものではありません。

それは私にとって回心の

体験であり、洗礼を受けよう

と心に決めた瞬間でありまし

た。このことは先生にもお話

したことがあります。その

時私が「小貫先生の厳かな声

を聞いて…」と言ったもので

すから、この「厳かな声」と

いう言い方を先生はとても

喜ばれ、何度も話題にしてく

だきました。先生はこのよ

うな創造の神秘を深く感じ取

ることのできるセンスを持つ

た方であったと思います。そ

して、このようなロマンチッ

クな信仰を照れることなく、まじめに語ってくれるところが私にとって雅夫先生の最大の魅力でありました。

先生と一緒に室蘭の夜景を

見るために測量山に登ったこ

とがあります。一同が工場地

帯の夜景に感嘆の声を上げて

いると、雅夫先生は、それも

きれいだけどこちらも見ても

よいよと、反対の側を示され

ました。工場地帯の夜景とは

対照的に真つ暗な海が広が

り、その上の夜空にたくさん

の星が点滅していました。そ

のとき先生が「僕はね、こっ

ちの方が好きだよ、人間が

作った光のように明るくはな

いけれど、神さまの力を感じ

るね」とおっしゃられたので

す。先生が信じておられたの

は、イエス・キリストの父な

る神であったことは言うまで

もありませんが、先生にとっ

て、その神さまは同時に創造

主としての神でありました。

先生は、とりわけこの創造の

神秘に深く感動され、折に触

れてその感動を私たちにも分

け与えてくださったのです。

もう一つ、忘れることのできない思い出があります。先生のいとこであり、私の親しい友人であった飯田博久君という若くして亡くなった青年の亡くなる瞬間に先生と一緒

に立ち会ったことがあります。私はすっかり言葉を失っていたのですが、先生が車の中で一言、「厳肅なものだねえ」と言われたその言葉が今も耳に焼き付いています。人の死に出会うとき、私はいつもこの言葉を思い出すのです。そして、今、雅夫先生ご自身がこの生が死と重なる瞬間という秘儀を通して神さまのみ国に帰ってゆかれたということを深く思わないわけにはいかないのです。

ここで初めに一節だけ読んで「シメオンの賛歌」の全体を読みたいと思います。

「主よ、今こそあなたはお言葉どおり

この僕を安らかに去らせてください。

私はこの目でああなたの救いを見たからです。

これは万民の前に備えられ

た救いで 異邦人を照らす啓示の光 あなたの民イスラエルの栄光です。」

シメオンは、自分の人生の終わりを見つめながら、救い主イエスとの出会いによって、自分が解放され、自由にされ、赦されていると言う喜びを持ってこの歌を歌いました。救い主による解放と赦しのうちにこの世を去っていくこと以上に大きな喜びはありません。幼子イエスを抱いたシメオンは、自分がまもなくこの世を去っていくと言う厳肅な事実を見つめています。それは、今お話しした雅夫先生の「厳肅なものだねえ」という言葉と重なる厳肅さではないでしょうか。

しかし、イエスを抱き上げた時、シメオンにはこの厳肅な事実の奥に、もう一つの世界が見えていたのです。それは、目に見えない世界を越えた目に見えない神の世界であり、イエス・キリストにおいて、神が共にいて下さるとい

において、様々な経験をします。老いて行く心もとなさ、病気の苦しみや死の不安から逃れることは出来ません。にもかかわらず、イエスを抱いたシメオンの心を、この幼子の中に枯れることのない命があるという喜びが刺し貫いたのです。それは、イエス・キリストに結ばれ、イエス・キリストに捕えられているという喜びに他なりません。永遠の神によって、ありのままの自分が受け入れられ、救われているという喜びなのです。

小貫雅夫先生の心を貫いているのもこの喜びであり、先生の生涯の中に私たちが見るのもこの喜び以外のものではありません。

共にこの喜びのうちにあって、先生を主の御許にお送りしようではありませんか。先生が文字通りバルナバ、慰めの子として生きられたように私たちも互いに慰め合うものとして、そして、先生が平和を求めて働かれたように、私

ありませんか。 ご家族の皆さまに主の豊かな慰めがありますようお祈りいたします。

【略 歴】

司祭 バルナバ 小貫雅夫師 一九三〇年一月一七日生

【信仰歴】 一九三二年

釧路聖パウロ教会にて受洗 一九四八年

函館聖ヨハネ教会にて、上田一良主教より信徒接手 一九六一年

上田一良主教より執事接手 一九六三年

上田一良主教より司祭接手 『職歴』 一九六一年

新冠聖フランシス教会牧師 一九六六年

北見聖ヤコブ教会牧師 一九七〇年

苫小牧聖ルカ教会牧師・聖ルカ幼稚園園長 一九七八年

釧路聖パウロ教会牧師・釧路頌栄保育園園長、厚岸聖オーガスチン教会管理牧師

一九八五年 網走聖ペテロ教会牧師、北見聖ヤコブ教会・紋別聖マリヤ教会管理牧師 一九九〇年

旭川聖マルコ教会牧師・旭川頌栄保育園園長、留萌キリスト教会・紋別聖マリヤ教会・稚内聖公会管理牧師 一九九八年

札幌聖マーガレット教会牧師・苫小牧聖ルカ幼稚園園長、美唄聖アンデレ教会・岩見沢聖十字教会管理牧師・岩見沢聖十字幼稚園チャプレン 二〇〇一年 定年退職



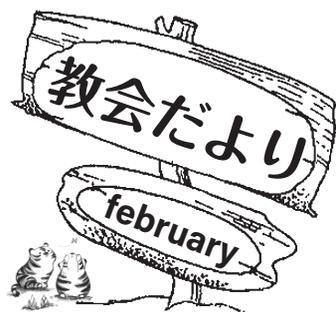
苫小牧聖ルカ教会前牧師館での家族写真

## 2022年度 教区役員一覧表

日本聖公会 北海道教区  
2022年1月1日現在

委員(部)会名	選出者	長	委員・部員名
常置委員会	教区会	司祭 大町信也	司祭 下澤 昌、司祭 永谷 亮、大友 宣、沖田京子、矢部幸子
教区審判委員	教区会	教区主教	司祭 木村夕子、司祭 松井新世、沖田京子、松下孝広
会計監査委員	教区会	古川義則	上村裕子
教区ハラスメント 防止委員会	常置委員会	志賀直信	司祭 木村夕子、桑田正博、山本雅之
管財委員会	常置委員会	橋本知樹	
建築融資金委員会	常置委員会	久末隼一	教区事務所主事、財政部長、
I T 委員会	常置委員会	司祭 永谷 亮	司祭 吉野暁生、横山光紀
北海道 M T S	常置委員会	司祭 吉野暁生	司祭 大町信也、司祭 松井新世、桑田正博、柴山富美子
礼拝委員会	常置委員会	司祭 松井新世	鈴木かほる、丸山悦子
教区事務所	常置委員会	主事 司祭 永谷 亮	副主事 金内淳子、書記 高橋 愛
宣教活動推進部	常置委員会	司祭 吉野暁生	司祭 飯野正行、司祭 池田 亨、司祭 大町信也、司祭 木村夕子、司祭 永谷 亮、司祭 松井新世、司祭 上平 更、佐藤忠志、城石梨奈、高橋 愛、土橋芳美、福富牧子、宮本道子、丸山悦子、矢部幸子、山崎典美、山本修嗣
財政部	常置委員会	橋本知樹	鈴木幸夫、松下孝広、横山光紀
神学生養成委員会	常置委員会	山崎典美	今村 隆、夏堀ヒロ子、服部幸子、横山弥生
歴史文書保管委員会	常置委員会	下田尊久	司祭 池田 亨、佐藤さつき、山本修嗣、三浦千晴聖職候補生
北海の光編集委員会	常置委員会	司祭 池田 亨	佐藤さつき、丹 政清、山崎恒子、吉谷かおる、三浦千晴聖職候補生
教区礼拝実行委員会	常置委員会	横山光紀	
教区宣教150年 準備委員会	常置委員会	司祭 吉野暁生	司祭 木村夕子、司祭 大町信也、大友 宣、鈴木幸夫、高橋 愛、丸山悦子、教区事務所主事
分区長 道 央		司祭 大町信也	
分区長 道 南		司祭 松井新世	
分区長 道 東		司祭 飯野正行	
分区長 道 北		司祭 永谷 亮	
聖職養成委員	教区主教	司祭 大町信也	司祭 下澤 昌
聖職試験委員	教区主教	司祭 下澤 昌	司祭 池田 亨、司祭 大町信也
教役者子弟育英資金	教区主教	教区主教	財政部長、教区事務所主事、三溝千春
主教座聖堂		教区主教	常置委員、札幌キリスト教会牧師、同教会委員会

委員(部)会名		選出者	長	委員・部員名
	チャプレン教区婦人会	教区主教	司祭 池田 亨	
	〃 財 政 部		司祭 永谷 亮	
	〃 青 少 年		司祭 永谷 亮	
	〃 G F S		司祭 木村夕子	
管 区 関 係	日本聖公会代議員	教 区 会		司祭 大町信也、司祭 木村夕子、 大友 宣、山崎典美
	日本聖公会常議員	管区総会		司祭 大町信也
	祈祷書改正委員会	常議員会		司祭 永谷 亮
	神学教理委員会	主 教 会		吉谷かおる
	女性デスク			吉谷かおる
	ジェンダー プロジェクト	常議員会		司祭 永谷 亮
	日本盲人キリス ト教伝道協議会			司祭 永谷 亮 (NCC派遣聖公会選出理事 / 7月総会迄)
	管 区 審 判 廷	管区総会		司祭 下澤 昌
聖公会保育連盟	教区主教		渡部良子	
管 区 議 員 会 教 区 連 絡 担 当 者	青 年 委 員 会	常置委員 会	司祭 上平 更	
	正義と平和委員会		司祭 木村夕子	※原発問題プロジェクト 尾関敏明
	人権問題担当者		<small>チヨキム シンガン</small> 曹金時江	
教 区 関 係 団 体	NPO法人ファミリー サポート聖十字ひろば		理事長 大友正幸	
	社会福祉法人 聖 公 会 北 海 道 福 祉 会		理事長 植松 誠	理事 大友正幸、下澤 昌、 山崎恒子、高橋久美子、矢部幸子 監事 高田鎮通、小貫晃一
	学校法人 聖 公 会 北 海 道 学 園		理事長 植松 誠	理事 大友正幸、広谷和文、 遠藤淳治、菊地和子、鈴木典明、 渡部良子 監事 能登 晟、山崎典美
教 区 協 力 団 体	教 区 婦 人 会		会 長 神林直子	
	教 区 G F S		支部長 小澤暢子	
	マ ル タ 会		主事 司祭 永谷 亮	高橋 愛
他 協 力 団 体	ホレンコ幹事		司祭 池田 亨、須田 潔、横山由紀子	
	北海道外キ連		司祭 大町信也	
	刑務所教誨師 (カッコ内は 所属刑務所)		司祭 飯野正行(網走)、司祭 永谷 亮(月形)、司祭 藤井八郎(函 館)、司祭 松井新世(月形)、司祭 吉野暁生(釧路)	



▽旭川聖マルコ教会

新しい年のコロナ感染はそのまま落ち着くのかな...と思っていたのも束の間、日々増え続ける感染になってしまいました。教区のコロナに関する「教区の指針」に基づき礼拝が続けて行われていま

す。三〇日の堅信受領者総会開催にあたり、九日決算・予算委員会開催、一六日会計監査が行われました。二二日は資料作成作業等の準備をしました。当日は礼拝後、広谷司祭の議長で無事終了しました。新しい年の歩みの始まりですが、計画されている事が少しでも実行されるように祈ります。保育園では、「もちつき大

会」は、昨年同様コロナ禍で中止としましたが、園児は元気に冬遊びを楽しんでいます。

▽岩見沢聖十字教会

ハレルヤ新しい歌を主に向かって歌え。この聖句で令和四年は幕を開けました。私達は主と歩みます。元日早々雪かき。今冬も雪の多い岩見沢。

そのような中、猛威を振るうオミクロン株。市中感染が広がりとつある。日々感染予防を徹底しての生活。冬休みも終わり、子ども達は園に戻って来ました。園児の笑顔は私達の力の源泉です。「コロナなんかには負けないぞ！」

二三日、教会総会。昨年の年の恵みに感謝し今年の歩みを期待しつつ、最後は池田亭司祭の祈りで総会を終える。

▽釧路聖パウロ教会

▽厚岸聖オーガスチン教会

(伝道所)

釧路では年明けから、連日零下一五℃以下の極寒の日々とドカ雪。さらにオミクロン株の感染爆発が勢いを増し、折角昨年未見直した礼拝時の

聖歌三曲から、再び二曲へと戻さざるを得ませんでした。

でもそのような環境下にあっても信徒たちの礼拝参加人数は以前と大きく変わることはなく、心強い限りです。

顕現後第二主日の一月一六日。教会新委員会が開催され、春田よしえ姉・荒井めぐみ姉・氏家節子姉・山本修嗣兄・飯沼勇一(陪席)鳴海範子姉が出席。吉野司祭から宣教と総務について業務量が多いため全員での役割分担依頼があり、その後各部からの報告と幾つかの懸案の協議がありました。

中でも時間が割かれたのは頌栄保育園・教会の建て替え問題。今後の保育園の在り方と教会の在り方について真剣な協議が行われました。

二四日、遠藤由美子姉、山本真知子姉のお姉さんである増子陽子姉が神に召されました。主よ、どうか深い平安を。

▽小樽聖公会

一月一六日(日)、植松主教様の巡回をいただきました。予定された主教巡回は今

回が最後。いつもの主日もさらに特別に感じられました。

植松主教様はお説教で、御祖父母様が小樽聖公会で結婚式を挙げられたこと、そのことをいつも大切にしてください

ましたお母様のこと、またわたしたちには、神さまがどんなときもいつも一緒にいてくださるといふ大きな励ましを語ってくださいました。礼拝後には記念撮影。久しぶりの一緒にの食事を楽しみにしていましたが、新型コロナウイルスの急拡大のため、お弁当は各自持ち帰り自宅でした。

▽新冠聖フランシス教会

一月九日(顕現後第一主日)主イエス洗礼の日、本年最初の聖餐式をお献げしました。今年の冬の例年になく寒さと雪の多さは、道内の各教会のみならず、道内でも同様の事と存じます。まして、月に二度の礼拝以外は扉を閉めている当教会のこと、教会に来てストーブが燃えていることは本当に有難いことです。

そのようなことを黙々と奉仕してくださる小泉たかしさん

に心から感謝です。年が明け、小泉さんに替わり三浦すみさんととなり、これまた感謝!

▽帯広聖公会

雪不足で迎えた新年でしたが、一二日に記録的な大雪に見舞われ、湿った重い雪の除雪に追われる一日となりました。九日の教会委員会で総会や大斎節の予定が話し合われましたが、コロナ感染者の急増に伴い、一六日からの公椿礼拝は休止に。それぞれの場所ですに祈りを捧げました。

また教会のホームページが新しくなり、多くの人に利用してほしいと思っています。ぜひアクセスしてください。神様の平安の内に日々新しくされ、喜びあふれる一年となりますように。

▽稚内聖公会(伝道所)

この冬は稚内も雪が多く、駐車場の雪山も高くなり、教会の屋根にも雪が厚く積もっていることが想像されます。教会や雪の状態をこまめにチェックすることは難しいですが、幸いにも駐車場を管理

して下さっている会社の方が教会の駐車場を重機で除雪して下さるだけでなく、屋根の雪の状態も見てくださるので、大事に至らないうちに対処できると思うと安心です。一月は大雪と新型コロナウイルス感染症の急拡大による影響のため、教会の礼拝は二月に合同して行うことといたしました。

▽札幌キリスト教会

留学生・路上生活者支援の金曜ランチに北星学園大附属高校から奉仕あり感謝。今年度の教会委員に鈴木幸夫兄・吉谷かおる姉が新たに加わる。堅信受領者総会では、決算・予算について承認。また、金曜ランチ支援として開始されたヴィオラ・デリ(小さな総菜屋さん)の活動や青年の「JCFグループから始まった「聖書の分かち合い」の活動等の報告があり、新たな光が照らされつつある。よりみちマルシエは、大きな力になり今後にも期待。療養中の上田トキ子さんが天に召され、御霊の平安を祈る。

▽札幌聖ミカエル教会

二〇二二年元日、主イエス命名の日は三〇名で聖餐式を守り、一年の歩みが始まりました。司祭は毎朝七時、マンションから百メートルほど歩いて教会でお祈りします。この冬は豪雪により、久しぶりに教会の屋根と雪山がつながる光景が出現しました。オミクロン株とやらの到来を受けてせっかくな盛り返してきた礼拝出席者数も再び減る傾向ですが、インターネットによる礼拝中継の視聴者は増えています。日曜学校は休校措置となり、楽しみにしている子どもたちが気の毒です。早期の再開を祈ります。幼稚園の新園舎建築は順調に進み、四月の入園式からの使用が楽しみです。三〇日、堅信受領者総会が行われました。

▽新札幌聖ニコラス教会

主イエス命名の日に植松主教様をお迎えして新年の恵みと祝福をお祈りいただき、新たな一年を始めることができました。昨年できていなかった活動を振り返り、教会委員

会もこの地域での更なる宣教の働きに向けて気を引き締める月となりました。二月六日の信徒総会で教会全体での取り組みを改めて考え直していきたいと思えます。

▽苫小牧聖ルカ教会

苫小牧も例年になく雪の多い日々が続いています。さらさら雪の日もあれば、ずっしり重たい雪の日もあり、新年から良い運動になつていきます。二日、新年明けて初めての礼拝。礼拝後、新年度最初の教会委員会が開かれ、新たな一年がスタートしました。こども園は四日からスタート。日に日に増えていくコロナの感染状況。今年も堅信受領者総会は文書持ち回りの形式で行いました。こども園も教会も感染対策をしながら、

▽函館聖ヨハネ教会

積雪が少なく、子どもたちは物足りない冬休みを過ごしました。大人は今冬はこれでおしまいか?雪かきの負担が少なく喜んでいた月末、例年通りの冬になりました。信徒総会も無事に終えた頃から、函館地方もコロナ感染者数が今までにない数に増えていきます。

第五主日は、司祭が今金へ。久しぶりの信徒奨励は、「多種多様な障害のある人と、一緒に生きる」をテーマに丸山兄がお話ししてくださいました。何ごとも神様のご計画、私たちは今何ができるかを考えるときなのかもしれません。

▽平取聖公会

司祭が平取に赴任したとき、前任の上平先生が「ここは雪が少ないので、竹ボウキ一本あればすみますヨ」と仰っていました。それがどうでしょう、こここのころの降雪の多い事!春が待たれます。

師夫妻で「朝の礼拝」を献げ、九日(顕現後第一・主イエス洗礼の日)が最初の聖餐式となりました。三〇日(顕現後第四主日)は主教巡回を予定しておりましたが、現下の状況を鑑み急遽中止に。でも、堅信受領者総会は予定通りに行われました。感謝です。

▽紋別聖マリヤ教会

例年に比べ雪が多く、寒さも厳しく感じられます。一月九日、植松主教様による主日礼拝、聖餐式。愛餐会の後、来月行われる堅信受領者総会の打ち合わせをしました。月一回の聖餐式、み言葉の礼拝を行って、み言葉に触れてきました。「聖歌はみ言葉」とばかりに毎回歌っています。

▽有珠聖公会

一月二三日、植松主教様の最後の巡回に、信徒こぞって参集。「昼は雲の柱が、夜は

火の柱が、民の先頭を離れることはなかった。」という出エジプト記の言葉を引いてのお説教に皆、心打たれ励まされました。また、主教巡回の度に同行されオルガンを弾いてくださった植松三千代さんによる奏楽を心惜しみつつ聴き、賛美を捧げました。礼拝後は、皆で記念写真を撮影。有珠観光館に場所を移し、夕食のお弁当をいただきながら、植松主教様・三千代さんとの思い出を温め合いました。

#### ▽留萌キリスト教会

あまりの大雪でクリスマス礼拝に出られなかったという声がチラホラと届きました。大雪は年末年始も降り続き、市内の道路は一車線の交互通行になってしまい、路線バスの運休が長く続きました。それでも一六日は会計監査を行い、二三日には信徒総会を行う事が出来ました。コロナ感染が急拡大し、名寄の藤井さんは総会出席を泣く泣く断念。総会も、礼拝後直ちに先行い正午には終了する形態で

したが、それでも真剣に資料に目を通しました。冬の峠はすぐ目の前。頑張ろう。

#### ▽室蘭聖マタイ教会

一月九日顕現後第一主日、松井司祭による聖餐式をもって本年の教会活動が開始しました。礼拝後信徒総会、主教巡回、本年の教会委員の選出等について話し合われました。

クリスマスは二月二五日、無事終わりました。例年の事ですが、東京に在住の斉藤篤兄より献金が送られて来ました。この方は仙台に住む退職司祭齊藤昭一師、室蘭聖マタイ教会の牧師であった方のご子息です。二三日の主日は植松主教ご夫妻最後の巡回で、大町司祭、松井司祭も加わり、教会員他ゆかりの方々も参加され、主教様の力強いメッセージに胸打たれました。白藤久枝さんの逝去二周年記念も行われました。

#### ▽北見聖ヤコブ教会

除雪の機会が少し多い今年の北見。氷雪の山をつるはしで碎いています。

一五日、アブラハム梅澤竹雄、ハンナ梅澤静子ご夫妻の逝去者記念の式がご自宅で執り行われました。竹雄さんは逝去四〇年、静子さんは七年の記念です。梅澤家の祈りの

沁み込んだ家庭祭壇は司祭がいただき祈りの時が持たれています。二六日、YMCAの年長クラスのお友だち一二名が来会。礼拝の体験をいたしました。主教被選者マリア・グレイス笹森田鶴師のための祈りをスタート。主に感謝。

#### ▽網走聖ペテロ教会

主イエス命名の日礼拝において「紅海を割る御名」を黙想。司祭は教会・ホーム・北見の除雪でへロ口状態になりつつも守られ感謝。一月より主教被選者マリア・グレイス笹森田鶴師のために祈ることをスタート。二月の園長

チャプレン協議会で飯野まゆみさんがファミリーホームについて少しお話をさせていた。宣教一三〇周年の記念誌がまもなく完成。一〇数名の方々がご寄稿くださり内容盛りだくさんのものをお

届け出来そうです。皆様の愛と祈りに心より感謝します。

#### ▽深川聖三一教会

お正月おめでとう。天父の祝福と全地の平和を乞い願う。保育園仕事始め、今年初の光の子の礼拝、子どもたちはたくさんお年玉をいただいたとのこと。決定により保育園の礼拝を二月末まで休止とす。密を避けるためやむを得ず。一三日、保育園職員会議、紺野保育士による「防災時の安全・竜巻の場合」についての園内研修あり。三〇日、明

年度の活動方針と予算決算委員会で信徒総会の成立と議案承認は議案書送付を以て有効と、各員位にお願いすると決定。コロナ病対策と了承を講う次第。

#### ▽聖マーガレット教会

一月二二日(土)、外は吹雪。現在堅信受領者定期総会の資料、その印刷と製本作業を行う。その資料をひも解けば、二〇二一年、困難にみちたコロナ禍においても毎主日、公祷をお捧げできたことが報告されている。主のお守りとお

支えに感謝。  
三〇日(日)、顕現後第四主日。午後、バルナバ小貴雅夫司祭様宅にて聖餐式。お孫さんも含む御家族が集まり、共に主の食卓を囲む。聖餐式の結び、病床に臥す小貴司祭様より祝福を受ける。司祭の務め、主のみ名によって人を祝福することを知る。

#### ▽今金インマヌエル教会

一月九日と三〇日に礼拝を守りました。三〇日は大変な吹雪となり、朝方、藤井司祭に命に危険が及ぶような日に来るのはお控えください、と連絡しましたが、すでにクラウチングスタート状態でした。後に無事礼拝、堅信受領者総会が行われ、心新たに一年を始めることになりました。この時期は天候の悪い日が多いので(年齢のせいとは言いませんが)皆で心配しております。更にこのオミクロンの中の、皆様もお体に気を付け神様のみ手に守られますよう願っております。

願っております。